

海から続く急な坂を登り、展望台の上まで達すると、背後に鬼岳が見えます。海岸沿いには黒ずんだ岩場が左右に広がっているのが見えます。

このような海岸線は五島列島では特に珍しくありませんが、鐙瀬溶岩海岸は特別な歴史を秘めています。鬼岳は約 1 万 8,000 年前に噴火を起こし、溶岩の一部が海岸まで流れてきました。

この種の溶岩はアア溶岩と呼ばれ、表面がざらざらとしています。冷めて固まると、大きくでこぼこした黒い岩石になります。岩石は、溶岩から出る気体を通った穴で覆われています。また、アア溶岩はクリンカーと呼ばれる黒く鋭い破片を作り出します。海岸ではより大きな岩石の間で見ることができます。長年かけて、打ち寄せる波の侵食により岩が細かく砕かれ、大小・形さまざまな火山岩が作られました。

鬼岳をはじめとする辺り一帯の火山の噴火は、7km に及ぶノコギリ状の海岸線を生みました。対馬海流のおかげで鐙瀬溶岩海岸の気温は島で最も高く、亜熱帯植物も生息しています。

鐙瀬という珍しい名前は「鐙の浅瀬」を意味します。言い伝えによると、1507 年、逆臣に追われる藩主が海岸で馬を走らせていたところ、この場所で片方の鐙が切れてしまいました。藩主は漁船で近くの島に逃れたものの、捕らわれるよりはと、腹を切りました。「鐙の浅瀬」の言い伝えはこのようにして生まれたのです。